スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県美浜町

自 治 体 名 ： 福井県美浜町
担 当 課 名 ： 美浜町教育委員会事務局　教育総務課　教育総務グループ
電 話 番 号 ： 0770-32-6708

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	152.35㎢
人口	8,627人
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	169人
部活動数 （運動部活動のみ）	7部活
地域クラブ活動数	2クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

«現状»

美浜町では中学校1校体制で、以下の運動部活動がそれぞれに活動している。

【運動部活動】

計7部活

・ボート部・陸上部・男子ソフトテニス部・女子ソフトテニス部・男子卓球部・女子卓球部・女子バレーボール部

また、地域クラブ活動については、ボート部が休日の活動を、野球部が平日・休日ともに近隣市町との広域連携により活動を行っている。

【地域クラブ活動】

計2クラブ

- ボート部（福井ジュニアローイングクラブ　休日）
- 軟式野球部（FACTベースボールクラブ（福井県若狭町との広域連携）　平日・休日）

«成果と課題»

令和7年9月に設置した「美浜町中学校部活動の地域移行のための組織・体制検討委員会」において年5回の協議を重ね、休日の部活動を令和7年度内に地域クラブ活動へ完全移行できるよう、ガイドライン及び地域クラブ認定基準を策定し、令和7年度中に全ての運動部活動について、地域クラブ活動の受皿となる地域クラブの認定を下記のとおり行い、令和8年度から休日の地域クラブ活動が可能な体制を整備することができた。

【認定地域クラブ】

計6クラブ

- 福井ジュニアローイングクラブ（ボート部）
- 美浜アスリートクラブ（陸上部）
- ZERO1（男子ソフトテニス部、女子ソフトテニス部）
- 軟式野球（FACTベースボールクラブ）
- METEOR嶺南卓球クラブ（男子卓球部、女子卓球部）
- 美浜レイヴンズ（女子バレーボール部）

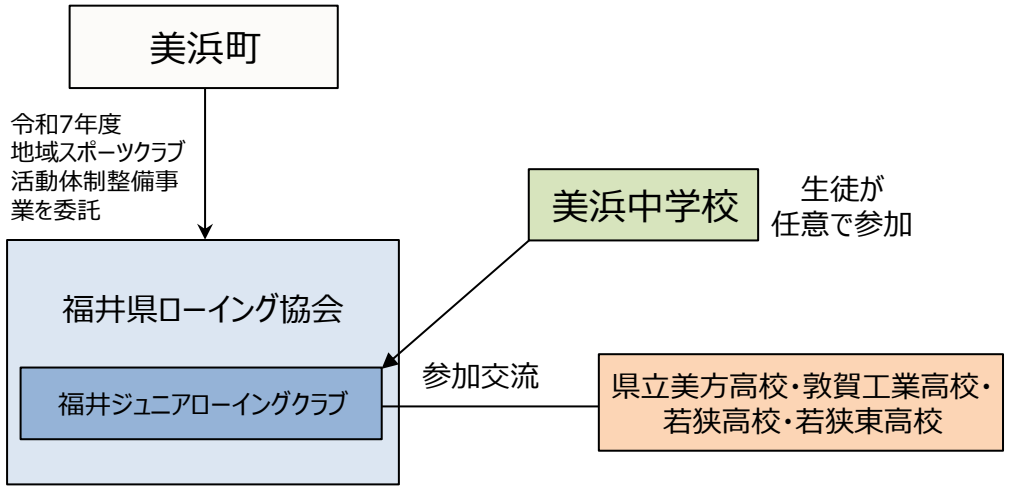
一方で、平日の部活動の地域移行については現存7部活動のすべてで目途が立っておらず、令和10年度を期限として令和8年度以降も引き続き検討・調整を進めて行く必要がある。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（教育総務課、生涯学習推進課）

・美浜町中学校部活動の地域移行のための組織・体制検討委員会　事務局

・実証事業事務担当（教育総務課　教育総務グループ）

◉首長部局（まちづくり推進課）

・美浜町中学校部活動の地域移行のための組織・体制検討委員会　検討メンバー

◉コーディネーター（なし）

年間の事業スケジュール

時期	計画事項		
4月	3回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
4月26、27日	2日	岐阜レガッタ出場	川辺漕艇場
5月	5回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
5月17	1日	体験事業	県立艇庫・久々子湖漕艇場
6月	5回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
6月29日	1日	津幡レガッタ出場	津幡漕艇場
7月	2回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
7月6日	1日	体験イベント	セーレンドリームアリーナ
7月	3回	強化練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
7月26、27日	2日	全日本中学選手権競漕大会	潮来ボートコース
8月	4回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
8月30、31日	1日	福井レガッタ	県立艇庫・久々子湖漕艇場
9月	4回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
10月11、12日	2日	全国中学校新人ボート大会	川辺漕艇場
10月	3回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
11月	5回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
12月	4回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
1月	4回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
2月	4回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
3月	4回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
3月	4回	練習・合宿	県立艇庫・久々子湖漕艇場
3月20、21日	2日	全国中学校選抜大会	久々子湖漕艇場

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		1クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		1クラブ（1部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	4人	全体の運営スタッフ数	7人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日･休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
福井ジュニアローイングクラブ	ー競技団体	ローイング（ボート部）	平日　0回/月 休日　5.5回/月	8:00～12:00	3年：8人 2年：6人 1年：9人	4月～3月	4人	7人 （内、兼務0人）	5,000円/月額	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 5/17　体験事業（福井県立久々子湖漕艇場）
- 7/6　　体験イベント（セーレンドリームアリーナ）

2.実証内容と成果

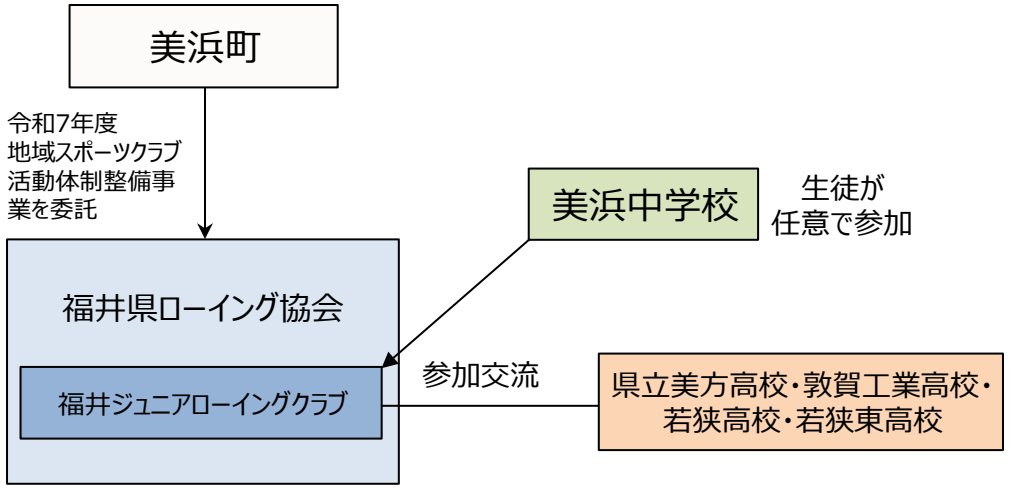
スポーツ庁

主な取組例

●福井ジュニアローイングクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ローイング
運営団体名	福井ジュニアローイングクラブ
期間と日数	ローイング：月4回程度
指導者の主な属性	競技及び指導経験者
活動場所	福井県立久々子湖漕艇場
主な移動手段	保護者自家用車による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	ローイング：60,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：1,480円／年 指導者1人あたり：6,000円／年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●自治体

役割：令和7年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業事務を行う

●福井ジュニアローイングクラブ事務局

役割：令和7年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業事務を行う

●チーフコーチ　3名、サポートコーチ1名

役割：地域クラブ活動を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

担当部局と福井県ローイング協会が連携を図りながら、実証に臨む。

取組の成果

- 地域クラブ活動へ移行してから5年が経ち、保護者からは、送迎、月謝、活動について理解が得られている。
- 充実した指導体制をとっており、生徒からの満足度も高い。
- 指導者もやりがいを感じており、地域貢献や生徒の成長に喜びを感じている。
- 全国大会で好成績を収める等、クラブ活動により選手が高い競技スキルを習得することができた。（全国大会3連覇は、競技種目の変更が伴い、達成できなかった。）

コーディネーターの具体的な動きの実績

- コーディネーター不在につき実績なし

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- 地域クラブ活動の指導者や参加者との連絡・調整

今後の取組における課題

- 引き続き、月間活動回数を維持し競技レベルの向上を図るとともに、クラブ会員を県域で募集し、能力の高いタレントの確保また育成を行い、高校部活動へ繋げ、中高一貫指導体制の一助とする。

課題への対応方針

- 勧誘活動の強化を図る。
- 充実した指導体制を維持する。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- 指導時に使用する船舶のメンテナンスに不備がないか
- 活動時に使用する競技艇及びライフジャケットに不備がないか

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- 活動中のトラブルや事故等の対応を含め管理責任の主体について
- 事故等が発生した場合における保護者や関係機関等との適切な連絡調整

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

町技であるローイング競技を対象としており、クラブが属する福井県ローイング協会から公認コーチの資格を有した複数名の指導者を配置し、指導の質の保証を図る。

今後の取組における課題

- 今後も引き続き、競技経験者はもとより、全国大会優勝経験を持つ指導者の確保と充実を図る必要がある。
- 女性指導者の育成を図る必要がある。

取組の成果

全国大会優勝経験を有する指導者を確保し、高いレベルでの指導をできる環境を整えた。

課題への対応方針

- 指導者間の交流の場を設ける。

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

既に美浜町、美浜中学校、福井県ローイング協会は連携をとっている中で、更に情報共有を図り、連携強化に努める。

今後の取組における課題

- 今後地域移行が進む中で、施設利用の調整が必要になる。
- 冬季間の施設活用について、他競技団体との密な連携を検討していく必要がある。

取組の成果

- ボート顧問が、クラブ指導員として役割を担う中で、美浜中ボート部とジュニアローイングクラブの情報共有、指導理念の共有推進が図れた。
- 中高一貫指導体制を確立するため、高校指導者との情報共有を図り生徒が長期で成長しやすい環境構築を図れた。

課題への対応方針

- 今後地域移行が進む中で、施設利用の調整を行う。
- 冬季間の施設活用について、他競技団体との密な連携を検討する。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

クラブでは、県内全域の選手を受入れ対象としていることを踏まえ、町外選手と一緒に活動することで、部活動の枠を越えた交流を図る。

取組の成果

- 県外合同練習会を行うことにより、部活動の枠を越えた交流が図れた。
- 毎年3月に実施している「全中選抜ローイング大会」においても、大会終了後に他県選手との交流レースを行う中で、互いの技量向上につながっている。

今後の取組における課題

- 次年度以降も、こういった取組を進めていく中で、スポーツ留学選手の確保につなげるとともに、「ボート王国福井」の競技力向上と裾野拡大に取組んで行く必要がある。

課題への対応方針

- 検討中

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 補助金の活用により保護者負担を軽減する。

取組の成果

- 経済困窮世帯の参加費負担軽減について、地域移行が進む中で他競技団体との足並みを合わせるため、検討のみに留まった。

今後の取組における課題

- 保護者が負担や不平等感を感じないよう適切な支援を検討して行くと共に、団体が補助金等を活用しなくても運営していけるよう企業支援等の自主財源の確保をしていく必要がある。

課題への対応方針

- 検討中

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容及び総括

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

- 冬期のトレーニングにおける、学校施設の活用
- 学校施設の予約・活用にあたり、他団体とのLINEによる調整を実施

今後の取組における課題

- 今後、他競技の地域移行が進む中で、限られた学校施設の活用を調整していく必要がある。

取組の成果

- ローイング競技については、湖上での練習が前提であり、冬季間における学校活用について、他の部活動とも調整しながら、校舎を活用したトレーニングを行うことにより、基礎体力の向上が図れた。

課題への対応方針

- 他の部活動とも連携しながら、冬季間での学校活用に取組んでいくとともに、他の体育施設の活用についても検討していく。

●総括

本実証事業では、部活動の地域移行におけるモデルケースとして、全国優勝経験者を指導者として配置し、高い指導力のもとでのクラブ活動を実施した。
指導者間での情報共有や研修を積極的に行い、指導の質の向上に努めた結果、競技力の向上だけでなく、生徒の成長を促す環境の整備にも寄与した。
一方で、他競技の地域移行に向けて整備が必要な課題もあり、競技間格差や保護者の不公平感等、今後も積極的な周知を行い、理解を求めていく必要がある。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

成果の評価・今後に向けて

●成果の評価

全国優勝経験者を指導者として配置し、専門性の高い指導を実施したことで、競技レベルの向上が顕著に見られた。また、指導者同士の情報共有や研修を通じて、指導方法の統一と質の向上を図り、生徒一人ひとりの能力を最大限に引き出す環境を整えることができた。

その結果、全国大会で好成績を収め、競技成果だけでなく、保護者や地域からの信頼も得ることができた。

●今後に向けて

- 今後も引き続き、競技経験者はもとより、全国大会優勝経験を持つ指導者の確保と充実を図り、生徒が高いレベルで成長や達成感を実感できる場を提供する。
- 生徒が成長できる活動の場を長期的に確保するため、団体の適切な運営方法を検討していく。
- 地域内に設置のある学校施設、社会体育施設等、活動できる場所が限られているため、他競技団体の施設利用調整を行っていく必要がある。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

参考資料



【水上練習体制の一場面】



【指導者の面々】



【シングルスカルの練習風景】



【ミーティングの一場面】



全国中学校新人ローイング大会「女子ダブル優勝」



【ダブルスカルの練習風景】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和3年		令和4～6年		令和7年	令和8年
モデルクラブ指定	活動支援 連携強化	実証事業継続	生徒、保護者への説明、受皿指定	地域クラブ活動への移行	地域クラブ活動の拡大

- 福井県ローイング協会が主体となって、国・県・町の支援を 受けて始動。
- 国が示す中学校の地域部活動の地域移行と、同協会が抱える競技人口減少、指導者の確保の課題が合致し、モデルクラブの指定を受ける。
- 保護者の理解、校区外からの人材確保が課題。
- 実施内容
  - 月1回の練習
  - 大会参加
  - トップレベル（全国大会優勝経験者）の指導体制の構築

- 福井県ローイング協会が主体となって、国・県・町の支援を 受けて始動。
- 国が示す中学校の地域部活動の地域移行と、同協会が抱える競技人口減少、指導者の確保の課題が合致し、モデルクラブの指定を受ける。
- 保護者の理解、校区外からの人材確保が課題。
- 実施内容
  - 月1回の練習
  - 大会参加
  - トップレベル（全国大会優勝経験者）の指導体制の構築

- 「中学校部活動の地域移行のための組織・体制検討委員会」の立ち上げ。
  令和7年度中5回実施
- 令和7年度中に既存運動部活動の休日の地域移行を完了。（地域クラブの認定）
  - ボート部（福井ジュニアローイングクラブ）
  - 軟式野球部（FACTベースボールクラブ）
  - 陸上部（美浜アスリートクラブ）
  - 男女ソフトテニス部（ZERO1）
  - 男女卓球部（METEOR嶺南卓球クラブ）
  - 女子バレーボール部（美浜レイヴンズ）
- 令和8年度以降の課題
  - 平日の地域移行の推進について
  - 新たな地域クラブ活動の試験的実施（地域展開）

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	令和8年	令和9年	令和10年
国のガイドライン	改革実行期間（前期） «休日»改革実行期間内に、原則、全ての学校部活動において地域展開の実現を目指す «平日»各種課題を解決しつつ平日、更なる改革を推進（まずは、国において実現可能な活動の在り方等を検証）		
町			
中学校			
地域クラブ	«休日»全ての運動部活動について地域クラブに移行済み（継続）		

«平日»既存部活動について地域クラブへの移行を検討・調整（継続）
地域クラブへの移行が進まない部活動については、部活動指導員の配置を検討（継続）

«美浜町中学校部活動の地域移行のための組織・体制検討委員会による検討・調整»
地域展開活動① 地域クラブ活動に関するアンケート調査の実施（小学校4年生～中学校3年生対象）
② ①で調査した人気のある活動について試行的に実施

町、地域クラブ、保護者との連絡調整

休日の地域クラブ活動（地域スポーツクラブ活動体制整備事業の実施）